

生き方・いろいろ・ゆたかな人生

まなこ



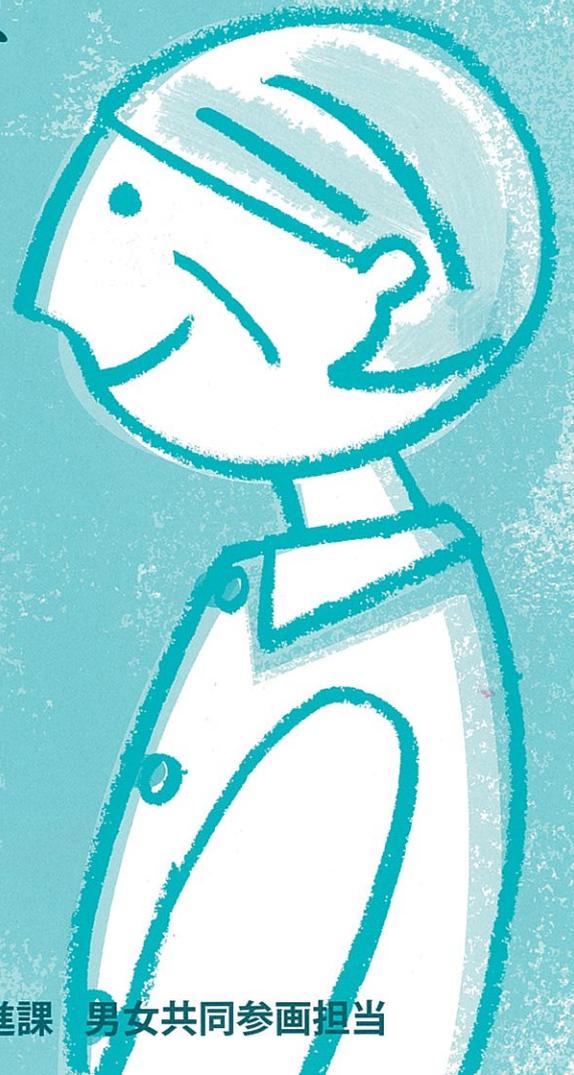
91
2014 Aug.



- ◎「娘が母との関係に苦しみを感ずても、その気持ちは間違いではありません」
信田さよ子さん……………P2
- ◎母への思いを語る……………P4
- ◎「武蔵野でひとり家で死ぬますか？」
上野千鶴子さん……………P5

特集

母との関係を 見つめなおす



近年クローズアップされている母娘関係は、外部から見えにくいだけに、深刻化してしまうこともあります。『まなこ』を通してもう一度、母と娘の関係を見つめなおしてみませんか。

娘が母との関係に苦しみを感じても その気持ちは間違いではありません

一般的に母親の愛は深いと言われていますが、実母との関係で深い苦しみを感じながら生きる娘たちもいます。母娘問題に関する著書を持つカウンセラーの信田さよ子さんにお話を伺いました。

「母娘問題」は歴史的必然

「母が重い」―娘がこんなことを言えば「いい歳した娘がわがままを言っている」と受け止められることでしょう。私が書いた『母が重くてたまらない』墓守娘の嘆き』では、カウンセリングを通じて浮かびあがってきた娘たちの姿を描き、大反響を受けました。出版から6年たった今でも、母と娘の関係を問題として扱った本

や雑誌記事が増えていることに驚いています。この問題が急増しているわけではなく、本や雑誌記事を見て、自身の置かれている状況を見て、「こういう名前で表現できるんだ」と認識し、「母から逃れたい」と声を上げる人が増えているのが現状のようです。

母娘問題は、起こるべくして起こった社会的・歴史的必然と言えます。明治期に家父長的家制度が取り入れられ、家の中で男性が上位とされました。一方の女性は家族を支えるため耐えて我慢するこ

とを押しつけられてきました。家制度は戦後廃止されたにもかかわらず、耐える母親像は「母性愛」「家族愛」の表れとして今でも美德と扱われています。

そんな母親と娘の間がギクシャクしている大きな要因のひとつは、女性の高齢化にあります。以前は「娘」でいられる期間はせいぜい20年程度と短かった。ところが近年急激に寿命が延びて、90代、100歳の母だつて珍しくなくなり、90代の母親のことで相談に来る60代の娘の姿も少なくありま



信田さよ子さん

臨床心理士。原宿カウンセリングセンター所長。アルコール依存症、摂食障害、DV、子どもの虐待などに悩む本人やその家族へのカウンセリングを行っている
http://www.hcc-web.co.jp/

自分の思いを母親にわかってもらうことは諦めましょう。母親のことを悩むのは間違いでないし、その母親と距離をとることに罪悪感を感じる必要はありません。そし

て本を読んだり、書き出して、自分の母について整理をしましょう。これが「母親研究」です。上手にフエードアウトしましょう。「取材 矢後麻美／取材文 友野その子」

に亡くし、また少子化も進んだために、家庭内のことを全てをひとりで背負わざるを得ない娘が増えました。80年代末の雇用機会均等法により、女性もそこそこの経済力を持つようになったことも追い風となり、母親の期待が熱く娘に注がれるようになったのです。同性である娘は自分に最も似た存在で人生を共有できる…と娘を利用する母親の誕生です。

自分だけで抱えこまないで

カウンセリングを受けにくる相談者を見ると、母娘問題に悩む「娘」は、子育て中の方がメインです。子育てしていると、自分対子ども、自分対母親が重なって見えることで疑問を抱きはじめるケースが多いようです。他にも、子どもにヒステリックに怒鳴ってしまつて、「あ、これどこかで聞いたな」と記憶が蘇る。自分が母と同じようになりたくなかったのに似てしまつていることに恐怖を覚え、子どもに同じ苦しみを与えないために母親との関係を整理しなければならぬと感じた方もいました。

悪感を抱くものです。皆が信じる母性愛に疑問を持つということは、「普通の幸せな」人生像を崩壊させ、自身が少数派へ転落する恐怖さえ覚えるため、避けたくなるもの。でも、母親との関係で苦しんでいるならば、そう感じるのとは間違いではありません。それを認識するのが問題解決の第1段階です。

その次に、理解しあえる仲間と自分の思いを共有してください。専門家のカウンセリングを利用したり、グループセッションも有効です。また書き出してみるのも手ですよ。書くことで、ある程度は整理されます。それを母親以外の理解のある人に読んでもらうようにしてください。仲間の存在は罪悪感を軽減することにつながります。

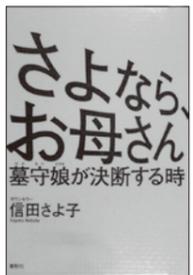
歴史的に虐げられてきたからこそ女性が強いですよ！ 声をあげているのが女性だから「母娘問題」と称されていますが、実は「母息子問題」だつて存在しているんです。でも社会的抑圧から声をあげられない息子たちは、自分だけで抱え込んだあげく、引きこもりだつたり、うつになつたりすることで訴えていると私は見えます。声をあげた方が健康でいられるでしょう？

大切を育ててくれた母親のことを「重い」と思うだけで、娘は罪

母を変えることはできません。

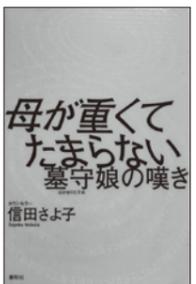
信田さんが提言！ 母との今後の関係の持ち方

- ① 少しずつ距離をとる
- ② 「あなたのためだから」は、まやかしと心得る
- ③ 関係を断つ
- ④ 逃げる
- ⑤ 夫に防波堤になつてもらおう
- ⑥ 世代連鎖の呪縛を恐れない
- ⑦ 謝罪の言葉を引き出す



引用 『さよならお母さん』 墓守娘が決断する時 (春秋社)

母娘問題についての信田さんの主な著書



『母が重くてたまらない』 墓守娘の嘆き (春秋社)



『共依存 苦しいけれど、離れられない』 (朝日新聞出版)

母への思いを語る

母からの抑圧に違和感を感じながらも、それを口にする事ができず、その気持ちを自分だけの心に閉じ込めてしまっている人も多いはず。市内在住のおふたりが、その胸の内を語ってくださいました。

—お母様についてお話しください

Aさん 私が子どもの頃はとても教育熱心で、中学時代テストの点が良くないと、よく物が飛んできました。進路についても母に「あなたは絶対この学校に行くのよ」と言われ、母に褒められたというより、とにかく怒られるのが嫌で懸命に勉強しました。

母は支配欲が強く、自分にかかわる全てのことを「知らないでいる」ことが耐えられない人です。今は私の子どものごとも含め、私がどういう状態でも、どんな行動をとっているのか、いつも把握しておきたい。なので、頻りに連絡しないと、「あなたは冷たい」と怒られます。その場合はメールが多いです。しかも超長文(笑)。電話で怒られるのは、その瞬間だけ嫌な思いをすればすむけれど、メールはすぐこたえます。何も手につかなくなる時もあります。だから読むたくない。でも、削除することができないのです。このような状況回避のため、いつ母に連絡したかメモをし、ご機嫌伺いをするために連絡します。

めに連絡します。

Bさん 母の中には「高学歴＝人生の幸せ」という絶対的な価値観があり、すべてがそれで回っていました。だから、私も姉弟たちも褒められるのがうれしくて勉強し、全員東京の一流大学卒です。負けず嫌いな母にとって、それは今でも勲章なのです。母はすぐ激昂し、手が出ます。傘が折れるまで叩かれたこともあります。でも、私にとっては母がすべてで、大好きでした。

—そんなお母様に違和感や「ちょっとおかしい」と感じたのはいつですか

Aさん 結婚して妊娠した時ですね。母は大喜びで、産院を自分で手配し実家に帰って産みなさいと言ったのです。嫌と言えないのでそのとおりにしたのですが、実家でのひと月は苦痛でした。復職を考え保育園を探したときも「どうして私に頼らないの」と激怒。そんな時「どうして、こんなにかわつてくるのだろう」「いい大人なのになぜ自分の好きにさせてくれないんだろ」と思い、これまでを振り返って「干渉されてきたんだ」と気づきました。

Bさん 私は就職を機にです。当時両親が離婚し、母と子全員で東京で暮らすことになり、先に就職していた姉の給料でマンションを借りたことになった時、姉と私が結婚することになった時、急に母も再婚すると言い出しました。同じ女性として負けていけないわよとアピールしたんでしょうね。その頃から、母の言動は理不尽なもので、自分たちは振り回されている。そしてそれは、母が「子どもへの深い愛情の裏返し」だと、自分の都合のいいように脳内変換しているだけなんだ、と思うようになったのです。

—このような話をこれまで誰かにしたことはありますか

Aさん 夫にだけです。夫はすぐく理解してくれていて、私に心の安定を与えてくれます。私は心の底では母が好きなんです。だから関係を改善するために何かしようとは思っていません。それが、同時に母を傷つけることになると思うからです。ただ先日、市に相談窓口がある事を知って、行ってみました。実際話してみるとすごく辛

くなりましたが、自分が今まで現実を見ないことで、心のバランスを取っていたんだと気づかされました。今後、その心のふたを自分が開けようとするのか、今はまだわかりません…。

Bさん 私も夫と夫の実家が私のシエルトターです。幸いというか、私には姉弟が多く、皆で気持ちを共有できているので、救われています。今回「まなこ」で話すにあたり、これまでを振り返り、書き出したのです。すると、すごく気持ちが楽になりました。

「取材・文 矢後麻美」

※詳細はP.7「武蔵野市役所女性相談相談を聞くまで」



イラスト ふじわらりわ

男女共同参画週間事業記念講演会

「本当は家にいたい 私の最期の時間」

「むさしので生きる 自分らしく あなたらしく」をテーマに今年も男女共同参画フォーラムが開催され、上野千鶴子さんと山崎章郎医師による記念講演会「本当は家にいたい 私の最期の時間」があり、悪天候にもかかわらず多くの来場者でにぎわいました。

記念講演会は、まず上野さんの講演から始まり、次に山崎医師による「ケアタウン小平クリニック」等のホスピスケアの事例紹介、最後に会田恒司前武蔵野市副市長がファシリテーターとして加わったディスカッションの三部構成で行われました。ここでは上野さんの講演会を紹介します。

「武蔵野でひとりで家で死ねますか？」

「住みたい街 No.1」の武蔵野市へ転居してきた選択の基準は、美しいか便利かよりも、地域に介護資源があるかどうかポイントで、「武蔵野でひとりで家で死ねるか？」が重要でした。私はすでに、往診していただける在宅診療ドクターや介護事業所も確保しています。昨年から高齢者の仲間入りをし、市から介護保険証も届きました。

誰もが住みなれた家で人生の最期を迎えたいと願っていても、在宅ひとり死のハードルは低くありません。現在、死に方の選択肢として病院死：在宅死：施設死がありますが、その割合は 80：13：5で在宅死がなかなか増えないのが現状です。

「最期まで家にいたい」は年寄りの悲願であり、65歳以上世帯の持ち家率は8割を超えているにもかかわらず、最期まで自宅にいられないのはなぜでしょう？これは、同居家族あるいは別居家族が「家においておけない」という理由で、もしくは病院関係者によって「患者を自宅に帰すのは無理」と施設や病院に送ってしまうからです。施設入居の意思決定者は、自分でなく家族であり、本人も家族に配慮して、ひとりで暮らすことを断念してしまいがちです。

●トータル・ライフ・マネージメント●

では、在宅死は家族持ち&金持ちの特権でしょうか？おひとりさまは施設死か病院死しか選択肢はないのでしょうか？

在宅死の条件として、

- 1) 本人の意思
- 2) 介護力のある同居家族の同意
- 3) 地域に利用可能な医療・介護資源がある
- 4) 経済力がある

の4つがあげられます。

在宅を介護の場にすれば施設は必要ありません。住宅にサービスのデリバリー、つまり介護力（食事・排泄・入浴介助）があれば、おひとりさまでも自宅で最期を迎えることができるはずですが。

ひとり死は必ずしも孤独死でなく、在宅介護は必ずしも家族介護でなくてもいいのです。介護・看護・医療の多職種連携があれば、在宅ひとり死は可能です。24時間巡回訪



上野千鶴子さん
社会学者、立命館大学特別招聘教授、東京大学名誉教授
認定NPO法人ウイメンズアクションネットワーク(WAN)理事長
主な著書「おひとりさまの老後」「男おひとりさま道」

問介護と24時間対応の訪問医療・訪問看護、そして、いくらかの自己負担を覚悟すればサービスは手に入ります。

今の日本でも、おひとりさまの在宅死は可能ですが、そのためには特別な条件がいます。それは、ドクターや訪問看護師あるいはケアマネさんやヘルパーさん、ご近所の方、親しい友人のだれかなど、カリスマ的能力をもつ人が強いコミットメントのもとに司令塔の役割をしてくれる場合です。このハードルを特別な人でなくても越せるようにするには、連携システムを整える必要があります。医療・看護・介護のみならず成年後見や弁護士、税理士、葬儀業者などを含んだ「トータル・ライフ・マネージメント」を念頭においたシステムを作ることで、特別な能力や資源のない人にも、超人的なカリスマやコミットメントがなくても、ハードルを越せるようにしたいものです。

現在の介護保険は、独居高齢者がひとりで家で死んでいくようには設計されていません。介護保険をおひとりさま仕様でできれば、施設をたくさん作るより、病院で看取るよりもコストは安く済むはずですが。この在宅ひとり死の受け皿となるサポート体制があるのとないのとで、地域力の格差が生まれます。

この武蔵野市でひとりで家で安心して死ねますか？実現可能かどうか？みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

「文 杉田真奈美」

INFORMATION

市民活動推進課 男女共同参画担当から

●平成26年度 男女共同参画施策予算について

平成26年度市民活動推進課男女共同参画担当の予算は15,243,000円です。内訳は、

①男女共同参画推進委員会費 647,000円

武蔵野市第三次男女共同参画計画の検証・検討を行う推進委員会費。

②むさしのヒューマン・ネットワークセンターの管理運営費 10,029,000円

武蔵野市市政センター2階の市の男女共同参画施策を推進する拠点であるむさしのヒューマン・ネットワークセンターの管理運営費。学習・研修機能、情報提供機能、市民交流・活動支援機能等、重要な役割を担っています。事業委託料、人件費、光熱・電話・回線通信費、複写・印刷機借上料など。

③男女共同参画施策事業費 4,567,000円

男女共同参画情報誌『まなこ』作成、講演会・講座、男女共同参画推進団体活動事業補助金など。

●男女共同参画推進団体活動補助金について

男女共同参画推進団体が男女共同参画社会の実現に向けて行った研修・調査・研究等の活動に対し、活動の活性化と市の施策の推進を目的として、経費の一部を補助しています。

補助金の交付は、1団体各年度1回、上限5万円です。申請団体が多数の際や審査結果により、交付されない場合もあります。手続きは市民活動推進課へお問い合わせください。

平成25年度6団体実施 (①団体名 ②内容)

- *①HBB(Happy and Boon Buddy) ②講座「被害者にも加害者にもならないために『ハラスメントってなに?』」

市民部市民活動推進課 男女共同参画担当 TEL: 0422-6018-69 FAX: 0422-51-2000 URL: <http://www.city.musashino.lg.jp>

- *①共同参画むさしの ②ドキュメンタリー映画『her stories』上映と根来祐監督トーク
- *①武蔵野プラシヨフ女性問題研究会 ②シンポジウム「『ルーマニアと日本…男女平等の違いは?』～歴史的男女平等を観ながらの考察～」
- *①むさしのスカーレット ②トークサロン「カンボジアの女性たちと働いた5年間～農村の母子保健の改善をめざして～」
- *①ゆう³ ②講座「みんなでラクラク! ハッピー介護講座」
- *①子どももおとなも楽しむ生活プロジェクト ②講座「赤ちゃんを守る防災ワークショップ」

◎平成26年度の男女共同参画推進団体登録は24団体です。(平成26年7月10日現在)

●平成26年度 市職員採用状況

平成26年度、市職員の新規採用者は31名です。男女比は一般事務職で女性14名、男性12名。一般技術職は女性1名、男性4名。

●男女共同参画フォーラムを実施しました

6月23日から始まった「男女共同参画週間」に合わせ、市民や各団体が構成する実行委員会とともに、講座や展示などを内容とする男女共同参画フォーラムを開催しました。

- ・記念講演会「本当は家にいたい 私の最期の時間」(6/22)
- ・映画「レオニー」と監督トーク(6/28)
- ・活かそう! 男女共同参画計画(6/21)
- ・骨粗しょう症を予防しましょう～骨密度測定～(6/23)
- ・男女共同参画基本条例を考える 条例と私の初めての出会い(6/26)
- ・多様性を理解する(6/26)
- ・ちょっと聞きたい! ハッピー子育て&キャリア両立術(6/29)
- ・アフリカ女性の今: 自立への挑戦(6/29)
- ・パネル展示(武蔵野プレイス: 6/23～29、市役所: 7/1～4)
- ☆25年度フォーラム報告書はHPで見ることができます。

もしDVにあっているなら… 相談窓口をご案内します (相談は無料です)

●警視庁総合相談センター 03-3501-0110 (祝日・年末年始を除く月～金曜 8:30～17:15)

【配偶者暴力相談支援センター】

- 東京ウィメンズプラザ 03-5467-2455 (年末年始を除く毎日9:00～21:00)
- 東京ウィメンズプラザ (男性のための悩み相談) 03-3400-5313 (祝日・年末年始を除く月・水曜17:00～20:00)
- 東京都女性相談センター多摩支所 042-522-4232 (祝日・年末年始を除く月～金曜9:00～16:00)
- 東京都女性相談センター 03-5261-3110 (祝日・年末年始を除く月～金曜9:00～20:00)

- ☆ 夜間・緊急の場合 ●警察(事件発生時) 110番
- 東京都女性相談センター 03-5261-3911 (夜間・休日のみ)

- 武蔵野市役所 女性総合相談 専門の女性相談員が対応します。予約制 第2木・第4火(相談時間50分) 予約専用 0422-60-1921
- 武蔵野市役所 母子(ひとり親)・女性相談 0422-60-1850 (祝日・年末年始を除く月～金曜9:00～17:00)

近ごろの遠く母娘関係 平川みのり ●吉祥寺北町

一人の娘の母になって2年。子育てをしていても思うのは、今の私と同じ年齢だった頃の母だ。当時、既に3人の子どもだった彼女。頼れる身寄りも近くにいない土地で、彼女はどのくらい考え子育でしていたのだろう。母は今、更年期を迎え、心身共に大変そう。私が未熟すぎて、なかなか母をいたわることができない。私は思う。きつとまた今の母と同じ年齢になったときに母の気持ちを振り返るのかなど。まだまだ母にはたどりつけない。

魔法の言葉で娘と再出発 鬼頭麻佐 ●吉祥寺本町

私もやはり長女には特別な思いがあります。娘が成長していくにつれ、理想を押しつけてしまいがちになり、娘はいつも不機嫌でした。本気の衝突もありましたが、最近になってよく話をするようになりました。娘の話を聞くことと改めて意識するようになったからかもしれません。時間の共有によって、新たな関係が生まれたと思います。娘が教えてくれた好きな言葉は「かわいい!」「頑張ったね」。すなわち、娘によく効く魔法の言葉です。

みんな完璧ではない 赤崎江里 ●桜堤

子どもの精神は、成長につれ変化していく。お母さんは、全て世話してあげる赤ちゃんから自立を覚える一人の人間として、わが子への対応を変えていくべきでは…ということ。母になって初めて知りました。そして難しいです。自分が大人になっても完璧になっていないのと同じで、いちばん身近で何でも教えてくれた母も、完璧な人間だったわけではない。そう気づけたら、もっと幸せになれるのではないでしょうか。

「まなこ」サポーターの200字コラム

母との関係に「こころ」をいかに

相手の元気を引き出す「ねぎらい」の魔法

どんなに頑張っても、結果を出さないと評価されない…。そんな傾向は、社会でも、家庭の中でも見られるのではないのでしょうか。無条件で相手に感謝するねぎらいの大切さを、企業や家庭向けのセミナーで伝えてくれる兼重さんに、お話を伺いました。

一般的に、良い人間関係を築くには、「ほめることが大切」と言われます。確かに、ほめられることは人の励みになることもあります。でも、時として、相手の心を追い詰める場合もあるようです。それは、「ほめる」という行為が「何かしらの成果を出した」という条件の上に成り立っているからです。

ある店長を面接した時のことです。お店の売上げは良くないけれど、とても頑張っているのがわかったので、「よく頑張ってますね」と伝えたところ、それまで明るかった彼女が突然泣き出してしまいました。話を聞くと、「業績が上がらないストレスから髪の毛がほとんど抜けおち、カツラをつけている」と言います。その時、「そんなになるまで頑張っているのに、努力を認められないのはおかしい」と強く感じました。

家庭で実践してみよう!

- *「今日のご飯、美味しいね」(=条件付きのほめ)より「毎日、ご飯作ってくれてありがとう」(=労苦に感謝するねぎらい)
- *「○○してくれてありがとう」より「いつもありがとう」
- * (お給料日に)「今月もありがとう」より「毎日ありがとう」

直接本人に言いにくい時は…

ねぎらいたい人の側にいる人に「彼女にはとても感謝している」「彼のサポートにはいつも助けられている」と伝えようと、高い確率で本人にも伝わります。



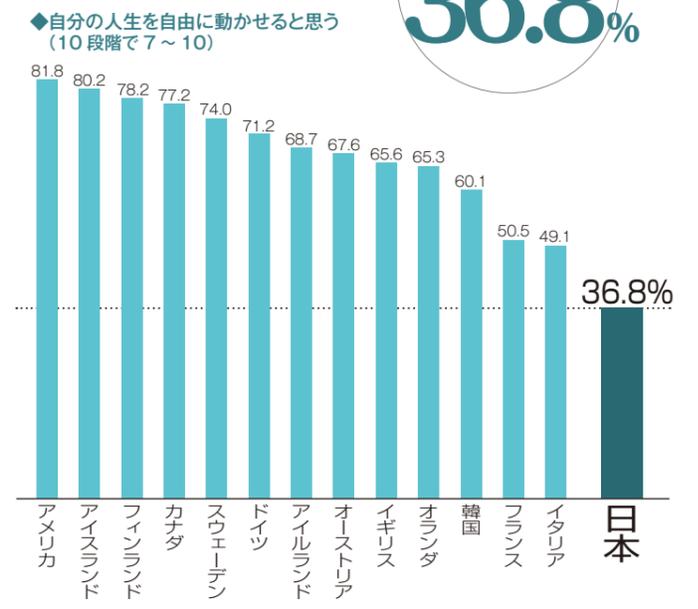
兼重 日奈子さん
アパレルの販売員から、店長へ、その後、企業研修講師へと転身。人のやる気を引き出す「ねぎらい」の魔法を伝えるために全国を飛び回る。著書に「職場も家庭もうまく「ねぎらい」の魔法」(角川学芸出版)などがある。
<http://www.kaneshigenhako.com/>

その後、ある本で、「ほめるは条件付き、ねぎらうは無条件」という言葉に出会いました。ねぎらいとは、労苦に敬意を表すということ。私は「結果に関係なく、その頑張りを認められることが人には必要だ」と実感したので。早速、ねぎらいの精神を研修に取り入れると、売上げも徐々に上がっていききました。「会社を辞めたい」と言っていた人も、ねぎらわれることによって、「もう一度頑張ってみよう」という気力がわいてきたようです。ねぎらいは誰が必要としているものではなく、共に過ごしている人の労力やその人が元気でいてくれることに感謝することを意識してみてください。それが大切な人の心を元気にします。

【取材・文 詩水淳子】

数字で見る男女共同参画 Vol. 10

これって何の数字?
36.8%



(図表出典)平成17年9月 内閣府男女共同参画局「少子化と男女共同参画に関する社会環境の国際比較報告書」内、「国際統計データで見る少子化と男女共同参画」の「世界60カ国価値観データブック」から抜粋 (注)「人生は自分の思い通りに動かすことができると思うか(10点満点評価)」という設問に対し、7点以上と回答した割合(1点:全く自由にならない、10点:全く自由になる(無回答を除く)) (資料)株式会社電通、日本リサーチセンター編「世界60カ国価値観データブック」 ※詳細は「参考Ⅱ:出典/定義」参照

「人生は自分の思い通りに動かすことができると思うか」という設問に対し「動かせると思う」と答えた「日本」の割合です。

右記は、内閣府男女共同参画局の「少子化と男女共同参画」に関する調査の一環で報告された『世界60カ国価値観データブック』(2004年発行)の数字で、「自分の人生を自由に動かせると思うか(10点満点評価)」という設問に対し、「動かせると思う」と答えた、各国回答における日本の割合です。アメリカ、アイスランド、フィンランド、カナダは約8割と高い値を示す一方で、日本はその半分以下の4割を切るという低い値となっています。

近年、日本においても、国や地方自治体による男女共同参画に対する政策推進や条例設置など、制度そのものがより良い形で整いつつあることを実感する機会が増えてきています。しかし一方で、例えば、男女とはこうあるべき、夫婦とはこうあるべきというような意識が、日本人の心のなかに根深く残っているのではないかと想像させます。

制度が整い生きやすくなったはずの日本。その日本が今いろいろな意味で生きにくい国であるならば、そうしているのは私たちの心。なのかもしれません。今後、諸制度の改善の次に優先されるべきは、さまざまな場面において、固定観念に縛られることのない多様性を受け入れられる柔軟な心。を育てることではないでしょうか。 [文 関口直子]

『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女共同参画の視点＝「まなこ」で見えていこう！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

平成26年度『まなこ』第1回サポーター会議

■赤崎江里(桜堤)

「男女共同参画」は難しくなく、身近なものなのだということ、サポーターの立場からお伝えできたらと思っています。

■菊池由起(緑町)

幼少期、ドイツ、フランス、日本で6度の転校。カルチャーショックによるうれしさや悔しさ。『まなこ』でも出逢えると期待して。

■鬼頭麻佐(吉祥寺本町)

PTA活動がきっかけで地域活動をしていらつしやる多くの女性たちと出会いました。サポーターとして皆様の応援をしたと思います。

■名久井梨香(吉祥寺南町)

西東京市で生まれ育ち、武蔵野市民2年目。今は夫婦共働き。『まなこ』にかかわるなかで、自分らしい生き方をみつけていきたい。

■平川みのり(吉祥寺北町)

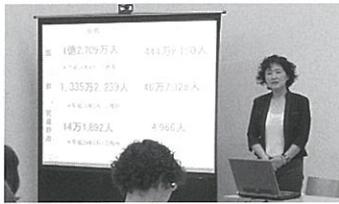
これまで地域のことでは自分より目上の方々がやってくださるものと思っていました。母親になってようやく目覚めた「もっと自分が住んでいる地域を知りたい」何かできることが今はうれしいです。



5月22日(木) 市役所にて

活動補助金事業を紹介します

6月26日「共同参画むさしの」は武蔵野プレイスのスペースCでミニシンポジウム「多様な性を理解する」を市と男女共同参画週間事業実行委員会との共催で開催しました。参加者28名。ゲイ、レスビアン、バイセクシャル、トランスジェンダー、Xジェンダーの当事者5人が登壇して性的指向、性自認および身体の性の多様性を語り、プライドを持った生き方の重要性を訴えました。参加者には非常に熱心に聞いて頂き、性的少数者の内面を初めて知った驚きや、差別観や偏見をなくしていく決意が、アンケートに寄せられました。[又「共同参画むさしの」3上かおり]



BOOKS

貸し出ししています！

むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書から
『母がしんどい』 田房永子著 (新人物往来社)



重苦しくハードなタイトルや内容が多い「母娘問題」だが、その中でも本書は異彩を放っている。脱力系の漫画であり手に取りやすい。

読みやすいながらも「母娘問題」の本質や苦しさの確に描かれており、読後に深く考えさせられる。強い母に人生振り回されつばなした「あたし」が最後に一つの発見と光を見出すシーンには感動を覚える。この本は、母娘だけでなく家族それぞれとの関係を見つめ直す一つのきっかけとなるだろう。
[又 丸山麻帆]

男女共同参画週間事業を紹介します

6月23日からの「男女共同参画週間」に合わせ、男女共同参画フォーラム「むさしの」で生きたる 自分らしく、あなたらしくが開催されました。

ミニトーク『みんなで話そう！』 条例と私・初めての出会い』には約30名が参加し「条例とは何か」「なぜ、条例が必要なのか」という話や、私たちの手で生活に効果を感じられる条例をつくっていききたい、という展望が語られました。第三次男女共同参画計画を推進させていくのは、私たち自身であることを再認識しました。
[又 丸山麻帆]



6月26日(木) 武蔵野プレイスにて

男女共同参画社会とは？

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、共に責任を担うべき社会（男女共同参画社会基本法第二条より）

むさしのヒューマン・ネットワークセンターは、
男女共同参画社会を実現するための推進拠点施設です
武蔵野市境2-10-27 武蔵野市政センター2階 tel: fax 0422-37-3410
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp URL http://www.mhnc.jp/

Editors' Notes 編集 * 後記

自分も娘として、そして、子を持つ親として、改めて考えさせられました。どこかで負の連鎖を断ち切らないといけないと感じました。
(詩水淳子)

母娘問題も老後の生き方にも考えたことがなかったたので、自分はどういう風に母や娘と向き合えばいいか、生きていきたいかを考える、とてもいい機会でした。
(杉田真奈美)

日常を気持ちよく生きることが難しさを改めて実感したと同時に、身近であり当然のことについて深く考える機会にもなりました。
(関口直子)

母の愛が、時に子を呪縛し続け、人生をも支配する、という話にソツとしました。4歳の娘と距離感を持たねば...と学ぶ所が多かったです。(友野その子) 母娘問題もベースは愛情から生まれている。それが相手を縛るほどのものとなってしまうか、相手の人権を尊重し程よく距離をおけるものとなるのか。子育て中の自身を振りかえりました。(丸山麻帆)

母と娘つて、気遣いや特別な言葉なんていらなくないと思っていた。でも今まで、母がそう思わせてくれたんだ、と感謝。そして、重たい母にならないうつ、娘とのいい距離を日々探していきたい。(天後麻美)

◎ 綴じ込み返信はがきで、ご意見やご感想をお寄せください。次号は、26年12月初旬発行予定です。

* STAFF *

サポーター 赤崎江里 菊池由起 鬼頭麻佐
名久井梨香 平川みのり
取材・編集 詩水淳子 杉田真奈美 関口直子
友野その子 丸山麻帆 矢後麻美
市男女共同参画担当職員
編集協力 栗原 毅
表紙・イラスト ふじわりわ
デザイン 上田ジュンコ
印刷 プリンティングイン株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、市内の医療機関、美容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなど市内の約450か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、市民活動推進課男女共同参画担当まで。